

ケアマネ かわら版

2010年
8月号

Vol.32

松江地域介護支援専門員協会

事務局：〒690-0012
松江市古志原7-4-14
あおぞら介護センター内
TEL (0852) 20-2123
FAX (0852) 20-2122
E-mail: aiccxia-j@mabie.ne.jp

～たのしく仕事していますか?～

仕事を楽しむ、人を楽しませる、人生を楽しむ

松江地域介護支援専門員協会

会長 稲田 基子

今年は、介護保険制度が開始されて10年という節目の年になります。それは、ケアマネジャーという職種が誕生して10歳になったということでもあります。職能団体として歩んできた10年を土台にしてさらなる飛躍をはかる年にしていきたいと思ひます。

昨年の総会で、会員より声の上がった「予防帳票の改善」については要望書を提出し、一年かけてやっと改善されました。これも職能団体としての役割であり、存在意義をしめすものだったと思ひます。また、三年間かけて医師会との合同研修会を重ねてきた結果で、共通の連携用紙を作成し活用してみることが決まりました。医師との連携がよりしやすくなればと期待しています。さらに包括支援センターが中心になり、病院への情報提供用紙の統一化も試行されています。

先日第一回目の役員会で、各役員が抱負を語りました。「魅力ある協会にしたい」「行政にはたらきかけて制度や業務等の改善をはかりたい」「ホームページを充実させてタイムリーに役立つ情報を発信したい」「参加してためになる研修をしたい」「飲みニケーションだけでなく親睦も考えたい」などなど。

有言実行の役員集団として今年度方針の具体化を図っていききたいと思ひます。皆様のご支援を受けて目に見える協会活動にしていきたいと思ひます。どうかよろしくお祈りします。

松江地域介護支援 専門員協会役員組織図

役員



新役員あいさつ

JAくにびき介護相談センター 山崎 裕美

JAくにびき介護センターの山崎裕美です。今年度より事務局でお世話になることになりました。日々の業務で、いっぱい、いっぱい(汗)なのですが、自分の中の妙なプラス思考で“なんとかなるかな”と参加させていただくこととしました。(笑)せっかく声をかけていただいた機会です。いい刺激、勉強の機会としていきたいと思っています。もちろん楽しみながら…(笑)皆さんにはご迷惑をかけることも多々あることでしょう。いろいろとご指導いただきながら、少しでもお役に立てるように頑張っていきたいと思っています。どうぞ宜しくお願い致します。m(_)_m



松南地域包括支援センター 吉岡 千鶴

松南地域包括支援センターの吉岡です。スポーツが大好きで、スポーツのテレビ番組があると画面にかじりついて見せてしまいます。特に箱根駅伝はいいですね。毎回、ドラマがあって・・・若者が命を必死でつなく姿はとても美しく、感動させられます。お正月にのんびり箱根の温泉に入り、走る選手を応援したい！これが私のささやかな夢です。微弱な私ですので、皆さまのお力添えを頂きながら、協会の仕事に取り組んでいきたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します！



松江医師会・八束医師会・松江ケアマネ協会 合同研修会に参加して

しんじ湖温泉居宅 横井 裕子

第5回となる医師会・ケアマネ協会の合同研修会に私としては2回目の参加となり、やや緊張は少なかったものの、やはりドキドキしていたことが思い出されます。

ケアプランの基本となる本人の生活の意向や希望を踏まえつつ、常に利用者の方の病状について「どんな事に配慮が必要？今の病状でどこに視点が必要？優先すべき対応は？」等、ケアマネは当然理解しアセスメントを深めていくのですが、ここで重要となるのが医師との連携。グループ討議では、先生方から「在宅生活を続けていくには医師はもちろん、医師以外の本人を取り巻く家族や介護支援者連との、具体的でかつ細かな連絡を取り合うことが重要であり、迅速で適切な対応が行える」と熱く語っていただき、改めて連携の大切さを実感しました。

つい(お医者様)というとなんとなく壁を感じがちな私ですが、利用者本位を意識し置くことのアドバイスや、先生方からは「診察時間だけでは、在宅での様子が見えにくい。患者の状態によって、緊急であれば診察時間であっても電話やファクスの通信手段もあるはず」などのご意見をいただきました。

各グループ発表では「主治医の意見書依頼、情報提供の方法

について、カンファの参加等」の意見発表や質問もあり、具体例等を挙げて答えていただき、主治医を含めたチームで利用者の方を支援していくことを参加者で再確認できました。

多くの患者様の診察時間の合間を縫いながらも、ケアマネとの連携を大切に考えて下さる先生方の熱心な姿には、頭の下がる思いとともに、同じ方向を向いて支援していくことの大切さを学びました。

今回の研修参加を機会に、より良い自立支援・在宅生活を支える支援者として、主治医の先生方とタイムリーな連携を図りながら、少しでも利用者の思いに近づけるようにと思います。



有限会社 くにびきケアサービス

〒692-0007
鳥根県安来市荒島町 1732 番地 6
電話番号 0854-28-9898
FAX番号 0854-28-9588

福祉用具の貸与、販売、高齢者、障害者向け住宅改修、
どんなことでもお気軽にご相談下さい。

福祉用具・介護用品の店

有限会社

げんき堂



本店 〒692-0011 安来市安来町 1083
☎ 0854-22-3652 FAX 0854-22-4222
松江店 〒690-0012 松江市古志原 3-7-31
☎ 0852-28-6041 FAX 0852-28-6045

「がん告知について」の講演をきいて

竹矢介護支援センター 角田 広子

松江地域協会の定期総会後に電話サロン代表多久和子さんの「がん告知について」講演を聴く機会を得ることができました。

最近の島根のがん対策は全国のがん患者さんから注目されているという新聞報道を目にしたことがありました。今回、多久和さんの講演や著書を通して、島根の現状はがん患者さんとその家族ががん向き合い闘われている日々の活動が病院、地域ひいては行政、国を動かすことにつながっていていると思いました。また、多久和さんはご自身のがん向き合いながら、がんという病気総体とも向き合っておられると感じました。

講演の初めに、日本人の死亡原因の第1位はがんであるが、がん患者のすべてががんで死ぬわけではない。2人に1人ががん細胞がある。原因は不明であるが20年

～30年かけて1センチになる。それから早い。その意味ではだれがなくてもおかしくない。特効薬もないのでがん

は早期発見、早期治療をする以外に対応がない。がんは高血圧などと同じように自分のがんであると言える病気ではない。それだからがんの告知は不安というより恐怖であると言うお話でした。

多久和さんが身内のがん告知の場面を体験されたのはお父さんの時であった。お父さんの時代はがんであることを隠すのが最大の医療であった。看護をされるお母さんは本人にがんであることを知られないようにするために大変であった。結果的にお父さんは自分から主治医に話してがんの告知を受けられたとのこと。がんの告知は

治らない病気として死を覚悟する面もあるが、今後をどう生きていくのか考える面もあるとのこと。

多久和さんはご自分のがん告知を受けられた後、自分がどうしたのか今でも記憶が戻らない。気がついたのは夜中であった。死の世界に放り込まれた自分であった。そして、2回目のがんの告知は簡単なお知らせみだいであった。・・・御主人は「僕は君のがんを受け入れられない・・・」と話された。がん向き合っているのは患者本人だけでなく家族であり、それぞれの苦しみや思いがあるとのこと。

多久和さんはがん告知だけでなく、余命告知をして欲しいと思う。それは周りの方とのお別れの時間が欲しい。がん患者はがんと闘い、もう十分に頑張ってきているので、最後には言いたい言葉もある。ぜひ患者に自分の意思が伝えられる時間を与えて欲しいと思うとのこと。

がん患者として多久和さんは多くのことを私たちに発信されてきました。中でも私の心に残ったのは、検診を受けて早期に発見できるがんでは死なない。そのためがん検診を積極的に受けること。また、若いがん患者さんの現状にもっと目を向けて欲しい。若いゆえに経済的に厳しく治療をあきらめざるをえない人もいるし、親や小さい子供にどのように「がんであることを告げる」のかなど、社会的におかれた状況でさまざまな苦しみがあること。

その意味でがんサロンの役割は大きく患者や家族の支えになっていて感じました。講演することは体力的にも大変であったと思いますが、心をこめて講演をくださった多久和さんに感動しました。



福祉機器販売・レンタル

WEED

株式会社 ウィードメディカル

島根県松江市東津田町 1731-10
☎ 0852-60-2661 FAX 0852-60-2664



らくらくタイコー

福祉用具レンタル・販売・住宅改修
セーフティホーム 24

松江市北田町 63 番地 4
TEL0852-22-3553 FAX0852-22-3555

サッカーW杯こぼれ話～人間万事塞翁が馬～

サッカーW杯の日本代表は戦前の予想を見事に覆し、BEST16まで進出しました。「人間万事塞翁が馬」とは、日本代表監督の岡田武史氏が選手に様々な場面で言っていた言葉（故事）です。

国境の近くにあった塞（とりで）の近くに住んでいた翁（老人）は、何よりも自分の馬をかわいがっていましたが、ある日突然、蜂に刺された拍子に飛び出してしまいました。一向に帰ってこない馬の様子に、周りの者は翁に同情しましたが、翁は「これがきっかけで何かいいことが起こるかもしれない」とだけ言って、我慢強く待ち続けました。しばらくして、その馬が別の白い馬を連れ帰ってきました。しかも、その白馬も負けず劣らずの優駿で周りの者は口々に何と幸運なことかと確立してましたが、翁は「これがきっかけで、別の悪いことが起こるかもしれない」と自分を戒め、決して喜ばなかったそうです。

それから、かわいがっていた息子がその白馬から落ちて片足を骨折してしまいました。周りの者はまた同じように慰めの言葉を掛けましたが、翁はまた同様に「いいことの前兆かも知れない」と言いました。それからしばらくして、隣国との戦争が勃発しました。若い男は皆、戦争にかり出されて戦死しましたが、息

子は怪我をしていたため徴兵されず命拾ったそうです。そして、戦争も終わり、翁は息子たちと一緒に末永く幸せに暮らしたという話です。

このことから、吉凶・禍福は変転し予想のつかないもののたとえとして使われるようになりました。

この「人間万事塞翁が馬」のように、多くの批判にあいながらも一喜一憂せずに自分の思いを貫くことがW杯での成功（目標はBEST4だったので、人によっては考えが違うかもしれませんが）につながったのではないのでしょうか（*^_^*）

日々の業務の中、良いこともあれば悪いこともあります。利用していただいている方に「色々あったけど、いい人生だった」と思っていただけのような援助ができるように努めていきたいと思いました。

※「人間」…「にんげん」とは読まず「じんかん」と読み、世間という意味です。

足立 新之介



～平成22年度研修計画～

時期	研修内容
10月	居宅ケアマネ研修
	県協会主催ケアマネ研究大会（出雲）
11月	施設ケアマネ研修
1月	認知症研修

※日時については、今後決定していきます。状況により多少時期がずれることがあると思いますが、ご了承ください。

編集後記

今年の夏は、サッカーW杯、大相撲の改革、参議院選挙と一喜一憂する夏でした。

また豪雨となり県内でも被害の報告があり、気象の変化がクローズアップされました。改めて環境への取り組みを真剣に考えて行かないといけなかったと思っただけでした。

さて、今回の紙面には、研修会の報告を内容に多く取り入れました。参加された方の報告を改めて読み、研修会にて学ぶ意義を再確認しました。この機関紙を通して、今一度振り返る機会とし、日々の業務にかして頂ければ、と委員一同願っています。